



とうえい

令和3年6月3日
東栄小学校
学校だより第3号

自分を好きになる！

初夏のさわやかな風が木々の緑とたわむれる季節となりました。先日、新聞を読んでいると、小学校6年生の書いた作文が目にとまったので紹介します。

「努力重ね 自分を好きに」

学校の授業で分からない問題があった。授業が終わっても解くことはできなかった。ぼくは悔しくて泣いた。学校が終わってすぐ家に帰った。教科書を開いて何度も問題を読み返した。それで、やっと解くことができた。本当にうれしかった。次の日、先生にできたことを報告した。先生は「やったね」とほめてくれた。やりきった自分が、ぼくはすごく好きになった。

たしかにはずかしさや、できないことがまだ多くて自分のことが好きでない人も少なくないだろう。でも、どうせなら自分を好きになりたいものだ。やはり自分を好きになるには努力するしかない。努力して少しずつできることを増やしていき、友達や先生からほめてもらえるようにするのだ。
この先も、ぼくは一生懸命努力する自分でありたいと思っている。

私は「やりきった自分が、ぼくはすごく好きになった。」という言葉に感銘を受けました。『自分を好きになる』とは、自分で自分を育てることだと思います。自分を育てるには、友達や親、先生からのアドバイスも大いに助けになりますが、基本的には他人の手を借りず、自分自身の力で育てることが大切です。そのためには、自分のいいところを見つけて、自分をほめればよいと思います。ただ、いいところはなかなか見つけにくいこともあります。そういう場合は、いいところをとことん探します。一つでも見出す努力をしてみます。たとえば、なわとびの2重跳びを連続して10回跳ぶことを目標にして、毎日練習をしているのになかなか跳ぶことができません。こんなときは「がんばってなわとびの練習を続けられた自分」を認めます。さらに、2重跳びを連続して3回でも4回でもできたら「やればできる」と自分を認めてあげます。いいところだけに焦点を当てれば、心が前向きになります。自分を好きになり、自分と仲良しになれば、物事はおのずといい方に行くような気がします。

～創立70周年今昔物語その2～

昭和30年代の授業風景です。木で作られた1台の長机を2人で仲良く使用していました。一生懸命勉強する姿は、昔も今も変わりませんね。



(校長 井田 寿)